

本章では、これから議論する場の量子論の準備を行う。断りの無い限り、 $c = \hbar = 1$ なる自然単位系を用いる。場の量子論は、既存の量子力学などの物理法則あるいは方程式を **Poincaré 変換** に対して不変な形に書き直す理論である。ただし、Poincaré 変換は、Lorentz 変換と時空並進変換のことである。

0.1 記法

まず、微小な時空間上の2点、 (t, x, y, z) , $(t + dt, x + dx, y + dy, z + dz)$ に対して、世界長さ ds^2 を考える。

$$ds^2 := dt^2 - (dx^2 + dy^2 + dz^2) \quad (0.1.1)$$

4次元時空座標を、

$$x^\mu := (t, x, y, z) \quad (0.1.2)$$

$$x_\nu := (t, -x, -y, -z) \quad (0.1.3)$$

と定義する。Einstein の縮約を使っていることに注意する。計量テンソル $\eta_{\mu\nu}$, $\eta^{\mu\nu}$ を、

$$x_\nu = \eta_{\mu\nu} x^\mu \quad (0.1.4)$$

$$x^\nu = x_\mu \eta^{\mu\nu} \quad (0.1.5)$$

となるように定義する。計量テンソルを用いれば、

$$ds^2 = \eta_{\mu\nu} dx^\mu dx^\nu \quad (0.1.6)$$

$$= dx_\mu dx_\nu \eta^{\mu\nu} \quad (0.1.7)$$

と書ける。 $\eta_{\mu\nu}$ は、上付き添え字が k 個、下付き添え字が l 個あるものに対して、添え字を上付き添え字を $k + l - 2$ 個、下付き添え字を $k + l + 2$ 個にするものだと考えてよい。なお、負の添え字の数は、添え字の上下を逆転させたものとする。同様に、 $\eta^{\mu\nu}$ は、上付き添え字が k 個、下付き添え字が l 個あるものに対して、添え字を上付き添え字を $k + l + 2$ 個、下付き添え字を $k + l - 2$ 個にするものだと考えてよい。

次に、全微分は、

$$\partial_\nu := \frac{\partial}{\partial x^\nu} \quad (0.1.8)$$

$$\partial^\nu := \frac{\partial}{\partial x_\nu} \quad (0.1.9)$$

と定義される。

0.2 Poincaré 変換

Poincaré 変換は、Lorentz 変換のパラメータを Λ_ν^μ 、時空並進のパラメータを a^μ とすると、

$$x'^\mu = \Lambda_\nu^\mu x^\nu + a^\mu \quad (0.2.1)$$

と書ける。微小変位は、

$$dx'^\mu = d(\Lambda_\nu^\mu x^\nu + a^\mu) \quad (0.2.2)$$

$$= \Lambda_\nu^\mu dx^\nu \quad (0.2.3)$$

と書けるから、世界長さ ds^2 は、

$$ds'^2 = \eta_{\rho\lambda} dx'^\rho dx'^\lambda \quad (0.2.4)$$

$$= \eta_{\rho\lambda} (\Lambda_\nu^\rho dx^\nu) (\Lambda_\mu^\lambda dx^\mu) \quad (0.2.5)$$

$$= \eta_{\rho\lambda} \Lambda_\nu^\rho \Lambda_\mu^\lambda dx^\nu dx^\mu \quad (0.2.6)$$

となる。今、Poincaré 変換に対して方程式は不変であることが要請されているのであった。式 (0.1.6) で与えられる世界長さを与える方程式も Poincaré 変換に対して不変であるべきだから、

$$ds'^2 = ds^2 \quad (0.2.7)$$

$$\Leftrightarrow \eta_{\rho\lambda} \Lambda_\nu^\rho \Lambda_\mu^\lambda dx^\nu dx^\mu = \eta_{\mu\nu} dx^\mu dx^\nu \quad (0.2.8)$$

$$\Leftrightarrow \eta_{\rho\lambda} \Lambda_\nu^\rho \Lambda_\mu^\lambda = \eta_{\mu\nu} \quad (0.2.9)$$

$$\Leftrightarrow \eta_{\rho\lambda} \Lambda_\mu^\lambda = \eta_{\mu\nu} (\Lambda^{-1})_\rho^\nu \quad (0.2.10)$$

$$\Leftrightarrow \eta_{\rho\lambda} = \eta_{\mu\nu} (\Lambda^{-1})_\rho^\nu (\Lambda^{-1})_\lambda^\mu \quad (0.2.11)$$

である。ただし、

$$\Lambda_\nu^\rho (\Lambda^{-1})_\rho^\nu = (\Lambda^{-1})_\rho^\nu \Lambda_\nu^\rho = 1 \quad (0.2.12)$$

なる関係を用いた。まとめると、 x^μ と x_μ の変換性は図??のようになる。

$$\begin{array}{ccc} x^\mu & \xrightarrow{\eta} & x_\mu \\ \Lambda \downarrow & & \downarrow \Lambda^{-1} \\ x'^\mu & \xrightarrow{\eta} & x'_\mu \end{array}$$

図 1: x^μ と x_μ の変換性

x^μ から x'_μ への変換が well-defined であることは非自明なので確かめておこう。まず、 $x^\mu \rightarrow x_\mu \rightarrow x'_\mu$ のとき、

$$x_\mu = \eta_{\mu\nu} x^\nu \quad (0.2.13)$$

$$x'_\mu = x_\lambda (\Lambda^{-1})_\mu^\lambda \quad (0.2.14)$$

次に、 $x^\mu \rightarrow x'^\mu \rightarrow x'_\mu$ のとき、式(?)より、

$$\eta_{\rho\lambda} \Lambda_\nu^\rho = \eta_{\rho\lambda} (\Lambda^{-1})_\mu^\lambda \quad (0.2.15)$$

であることを用いると、

$$x'^\mu = \Lambda_\rho^\mu x^\rho \quad (0.2.16)$$

$$x'_\mu = \eta_{\mu\nu} x'^\nu \quad (0.2.17)$$

$$= \eta_{\mu\nu} \Lambda_\rho^\nu x^\rho \quad (0.2.18)$$

$$= \eta_{\rho\lambda} x^\rho (\Lambda^{-1})_\mu^\lambda \quad (0.2.19)$$

$$= x_\lambda (\Lambda^{-1})_\mu^\lambda \quad (0.2.20)$$

となり、 η と Λ による変換は well-defined であることが分かる。

0.3 スカラー・ベクトル・テンソル

本節ではスカラー・ベクトル・テンソルを定義する。Lorentz 変換のパラメータを Λ とする。

0.3.1 スカラー

スカラーは Lorentz 変換に対して不変な量である。すなわち、

$$S \mapsto S =: S' \quad (0.3.1)$$

なる量である。

0.3.2 ベクトル

ベクトルは2種類あり, Lorentz 変換によって時空座標を変換したときに, 時空座標 x^μ と同じように変換される反変ベクトルと, x_μ と同じように変換される共変ベクトルに分けられる. すなわち,

$$A^\mu \mapsto \Lambda^\mu_\nu A^\nu =: A'^\mu \quad (0.3.2)$$

$$B_\mu \mapsto B_\nu (\Lambda^{-1})^\nu_\mu =: B'_\mu \quad (0.3.3)$$

において, A^μ , A'^μ が反変ベクトル, B_μ , B'_μ が共変ベクトルである.

0.3.3 テンソル

テンソルは3種類あり, Lorentz 変換によって時空座標を変換したときに, 時空座標 x^μ を2回変換したとき同じように変換される2階の反変テンソル, 時空座標 x^μ を1回変換してから1回逆変換したとき同じように変換される2階の混合テンソル, 時空座標 x_μ を2回変換したとき同じように変換される2階の共変テンソルの3つに分けられる. すなわち,

$$T^{\mu\nu} \mapsto \Lambda^\mu_\rho \Lambda^\nu_\lambda T^{\rho\lambda} =: T'^{\mu\nu} \quad (0.3.4)$$

$$T^\mu_\nu \mapsto \Lambda^\mu_\rho T^\rho_\lambda (\Lambda^{-1})^\lambda_\nu =: T'^\mu_\nu \quad (0.3.5)$$

$$T_{\nu\mu} \mapsto T^\rho_\lambda (\Lambda^{-1})^\rho_\mu (\Lambda^{-1})^\lambda_\nu =: T'_{\nu\mu} \quad (0.3.6)$$

の3つがある. 3つのテンソルの間には,

$$T^{\mu\nu} = T^\mu_\lambda \eta^{\nu\lambda} = T_{\rho\lambda} \eta^{\mu\rho} \eta^{\nu\lambda} \quad (0.3.7)$$

なる関係がある.